

初穂料・玉串料について

初穂の由来は古来の稲作文化から

日本は古来、稲作をはじめ農業を中心に国づくりを進めてきました。

ですから、みのりの秋には「ありがとうございました」という感謝の気持ちを込めて、その年に初めて収穫された稲穂などの穀物を神さまにお供えします。

これを**初穂（はつほ）**といいます。

野菜や果物、魚などの初物も同様です。

神社にお供えするお初穂という言葉は、ここに由来します。



お供えの包みの書き方

「初穂料」「御神前」「御供」「玉串料」「御榊料」

お供えを持参する際、いまでは季節にかかわらず、「お初穂」としてお金をお供えとすることが多くなりました。

その場合、包みの表書きには「**初穂料**」のほかに「御神前(ごしんぜん)」「御供(おそなえ)」「**玉串料(たまぐしりょう)**」「御榊料(おさかきりょう)」等の書き方があります。

「御神前」「御供」という表書きは、「神さま」に「お供え」する料のことです。

また、「玉串料」「御榊料」とは、玉串や榊の代わりにそれぞれお供えする料であることを意味しています。

表書きには、上記のいずれを使用しても構いません。

